

赤江 公民館だより

No.142 令和5年 2月号

館長のよもやま話

赤江地区民 みんなの合言葉

- 気持ちのよい あいさつを交わしましょう
- ごみを拾って きれいな町にしましょう
- 青少年の非行を防ぎましょう

赤江交流センター発行 TEL・FAX(0854)28 - 8982
メールアドレス akae.cs@city.yasugi.shimane.jp



「新しい年になり、いかがお過ごしでしょうか」というフレーズを前回の1月の公民館だよりに書き忘れてしまいました。

今年は、大雪となるという予想に反して、自宅のハウスの雪かきもなく楽な年となりそうだと思っていたところ、2月24日から始まった大雪で我が家も、それから4日間、雪かきに追われる日々でした。25日(水)はあまりにも交流センターの周りが雪で覆われており、地域振興課にお願いし休館することとしましたが、あかえこども園の職員の皆さんは一生懸命で雪かきをしておられました。

さて、1月後半からの、交流センター事業を少し?振り返りたいと思います。

15日(日)、加工クラブの皆さんにご指導いただき「ゆずを使ったポン酢づくり」を体験してもらいました。加工クラブの皆さんから、事前に十分な材料の下準備をさせていただいていたこともあり、スムーズに「ゆずポン酢」や「ゆず味噌」、「マーマレード」を参加者に作ってもらうことができました。



ポン酢作りの様子

16日(月)、長寿すこやか講演会として雲南市西日登で活動されている「おばば座」の公演を行いました。合わせて、寿朗会の新年会も行われました。本来なら皆さんが最も楽しみにされている会食をしたかったのですが、今年もコロナ禍ということで実現できませんでした。しかし、おばば座の団員の皆さんの素晴らしいパフォーマンスのお陰で、腹から笑い転げる1時間でした(関心のある方は録画ビデオがありますので、交流センターへお問い合わせください)。



すこやか講演会の様子

30日(月)には、今年1年間、寿朗会の皆さんとともに取り組んだ市役所地域振興課事業のひとつの「チャレンジ塾」の報告会を行いました。リモートというパソコンと向き合っの報告をすることとなり、これも初めての体験となりました。私のように旧人類にとって、なんとも言えないものでした。前に人がおられるからその雰囲気を感じながらしゃべれる者にとって、多分、聞かれていた各交流センターの皆さんにとっても何をしゃべっているのかと思われたことと思います。

2月に入り、めだかクラブのバレンタインのチョコづくりを6日と13日(月)に行いました。6日の4年生以上対象のチョコづくりは、他の仕事もあり、事務室の店番をしたので、その状況が分かりませんでした。13日の3年生以下対象の時は、さすがにと思い参加しました。ただ、私のやったことは、「静かに」「出歩かない」「食べない」などと、生活指導中心でした。主に、ボランティアの皆さんの協力のお陰で完成することができました。



(2)

チョコレート作りの様子

10日(金)、安来三中でありました「人権・同和教育公開授業と講演会」に出席する機会がありました。1年生から3年生までそれぞれのテーマで行われましたが、私が最も関心を持ったのは「識字教室」を取り上げた2年生の授業で、この授業を中心に見させていただきました。その訳は、随分以前の話ですが、同和地区で生活されているおばあさんとの話の中で、「私らはもういいが、孫にだけは差別を受けるような世の中は終わってほしい。」と言われた言葉が今でも心に残っています。皆さんもご承知のように様々な理由で小学校にも行けず、学ぶ機会がなく、自分の名前も書けず、色々な社会的な差別と不利益を受けて来られた方が、識字教室に通うことで、初めて、自分の名前や、文字を通して他人に意思を伝えることができるようになったという話です。この話は、そんなに昔のことではないことと、いまだに外国にはそうした状況にある人々がいると聞いています。

その後の講演のことも書こうと思いましたが、話しが長くなってしまいました。

少しだけお話しすると、岡本工介さんという大阪高槻市で社会福祉士として、地域おこしに取り組んでおられる方です。「差別をなくすから『手をつなぐ』ルールを大切に自分らしく生きる」と題したお話を伺いました。最も印象に残ったことだけをお伝えしたいと思います。それは、自らの経験として、近所の方々が大きな家族として自分は育てられ、人との出会いによって今の自分はあること、過去に経験したことが将来に生かせることとなる。そして、身近な人の言葉は信じやすいが、自分の目できちんと確かめることも大切である。岡本さんは、自分の仕事として「ひとりぼっちのいない町づくり」を自分のライフワークとしているということを生徒及び保護者の方にお話くださいました。

なぜか、いつも長くなってしまいます。最後まで、お読みいただいた方には感謝、感謝です。3月には、若葉マークの一年間の感想と懺悔の号としたいと思います。また、是非、皆さんから、次年度に向けてご意見をいただければうれしく思います。

3月の交流センターの予定

3月16日 生活習慣病予防講演会(18:30~20:00)※要事前申込

3月21日 女子カフェ「ビーズ刺しゅうブローチづくりの会」(13:00~16:00)

詳細については2月の回覧をご覧ください。

3月22日 めだかクラブ閉校式

赤江地域の安全・安心のために

安来市地域安全推進員赤江分会では、安来市防犯協会から委嘱された9名の推進員で赤江地区の安全で安心な生活の確保を目指しています。警察と連携し、特殊詐欺被害防止対策や鍵かけ意識向上などの取り組みをしています。また、今般の赤江小学校見守り隊のビブス(緑色のベスト)等の整備に支援させていただきました。

特に、本会では小学校に入学する児童の安全、安心に資するため、防犯用ホイッスルを毎年寄贈しています。

今後とも引き続き、赤江地域の安全、安心のため活動して参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

安来市地域安全推進員赤江分会長 上田広己

赤江地区のみなさまには、いつも子どもたちを見守ってくださり、ありがとうございます。お陰で安心して登下校することができています。この旅、安来市地域づくり支援事業による補助と地域安全推進員赤江分会のご支援により、赤江小学校見守り隊のビブス(緑色のベスト)やたすき、車に貼るマグネットシートを整備させていただきました。心よりお礼申し上げます。今後も引き続き子どもたちを見守ってくださいますようお願いいたします。

赤江小学校長 難波真章



ホッと一息 おいしいコーヒーを飲みませんか

2月より、交流センターでコーヒー豆の取り扱いを始めました。希望される方は事務所で購入するので、声を掛けてください。コーヒーメーカーは一回給湯室に設置しています。サークル活動や会議の時などにご利用ください。



豆代 一袋 40グラム入り (約5杯分) 200円 ※紙コップ、お砂糖ミルク付き